

平成22年度
第3回新川和江賞
～未来をひらく詩のコンクール～

表彰式・詩の朗読

と き:平成23年2月13日(日)

ところ:結城市民情報センター3階多目的ホール

ごあいさつ

「新川和江賞 未来をひらく詩のコンクール」は、結城市民情報センターとゆうき図書館の開館5周年を記念して、詩人である名誉市民新川和江先生の名を冠して、平成20年度に創設されました。

詩の創作を通じて、本市の文芸振興を図り、創造性豊かな青少年の育成に寄与すること、郷土の新たな才能を発掘することを目的に創設されたこのコンクールも3回目を迎え、今年度も市内在学・在住の小・中・高校生を対象に募集いたしましたところ、1,558点もの多くの作品の応募をいただきました。これもひとえに関係者の皆様の深いご理解と詩を愛する気持ちの賜物と感謝いたしております。

ご応募いただきました作品はいずれも力作ぞろいで、選考にはご苦勞されたと同っております。受賞されました皆様には心よりお祝いを申し上げますとともに、残念ながら選に漏れました皆様も、今後ますます詩に関心を持たれ、心に残るような作品を生み出していかれますことを期待しております。

皆様が、詩の創作を通じて、創造力を育み、豊かな毎日を過ごされますことを願いごあいさついたします。

平成23年2月13日

結城市長 小西 栄造

ご挨拶

〈未来をひらく詩のコンクール〉も三回目を迎え、結城の地にも、皆さま方の心の庭にも、しっかりと根づいてくれて、ゆるがぬものになりました。少くらい強い風が吹いても、もうだいじょうぶ。

情報センターが建ったばかりの頃、駅前のロータリーの中央に植えられたケヤキの木は、たよりないほどの若木でしたが、ずい分大きく育ちました。水戸線を降りて、改札口を出、情報センターに直接通じる歩廊を歩きながら、この木を眺めるのが、結城に着いた時一番最初に味わう、私の喜びなのです。ここで、この土地でたくましく育て欲しい、とつよく願って水やりや施肥をおこたらなければ、樹木は必ずそれに応えて、すくすく育ってくれるものなのです。

このコンクールに応募してくださる皆さまも、詩を書くことは、まず自分の心の中の土を耕すことから、はじめなければならないのだ、と実感なさっていることでしょう。土が固いと、恵みの雨も染み込めずに流れ去ってしまいます。やわらかく耕した土は、草花でも野菜でも、撒いた種を必ず芽吹かせてくれます。耕すと感性が豊かになって、見るもの触れるものが、聞いてほしがっている気持を聞きとって、言葉に表現してあげることができるのです。

ものばかりでなく、人と向き合うこのような優しい姿勢は、成人して世の中へ出てからも、とても役立つものなのです。想像力が豊かになっていますから、おつとめに出ても、お店屋さんを開いても、よいアイデアがつつぎつつぎ浮んで、周りの人たちに喜ばれます。

詩を書いたり読んだりすることを、私がおすすめるのは、詩人になることよりも、すばらしい大人に花開くためなのです。

後筆になりましたが、当コンクールを推進させてくださっている関係者の皆さま方、各学校の先生方に、あつくお礼を申し上げます。また来年もどうぞよろしく。

平成23年 2月13日

新川和子

次 第

日時 平成23年 2月13日(日)
午後 2時より
場所 結城市民情報センター
3F多目的ホール

●オープニングセレモニー

新川和江氏作品 「花の名」の群読（優良賞 27名）

●第1部 表彰式

1 開 会

2 主催者あいさつ

3 来賓あいさつ

4 表 彰

5 作品朗読 新川和江賞 1名
優 秀 賞 7名

●第2部 詩の朗読

●受賞者氏名

☆新川和江賞（最優秀賞）

ランドセル

結城小学校1年

のろせ さ き
野呂瀬 早 紀

☆優 秀 賞

くるりとね

絹川小学校1年

うえ の まな ほ
上 野 真 歩

へそどろぼう（かみなり）

絹川小学校4年

わた なべ たく ろう
渡 邊 拓 朗

オリオン

山川小学校5年

えびさわ とも よ
海老澤 朋 代

生きる海

結城中学校1年

い とう ま ほ
伊 藤 真 帆

ゴシップ

結城中学校2年

や ぐち か ほ
矢 口 華 帆

「夏色のカーテン」

結城東中学校3年

こばやし ゆ い
小林 佑 衣

見上げた空

結城第二高等学校3年

おい ぬま あゆ み
生 沼 歩 美

☆優良賞

でないでない			未来へ続け、みんなの笑顔	
江川北小学校 1年	もり 森	まなこ 愛子	江川北小学校 4年	さかいり 坂入 あゆな 安結菜
地球			なみだ	
絹川小学校 5年	なかやま 中山	りょうた 涼太	城南小学校 3年	いけだ 池田 まなと 真透
がんばれ、カナブン			あさがお	
城南小学校 5年	これまつ 是松	ゆうだい 悠大	山川小学校 1年	あくい 阿久井 みづき 美月
しょうにゆうどう			お父さん仕事中	
結城小学校 3年	のぐち 野口	ゆうと 悠斗	結城小学校 3年	まつもと 松本 なな 菜那
いのちのリレー			つくば山	
結城小学校 3年	みやた 宮田	さえか 冴香	結城小学校 5年	おの 小野 しんご 真吾
結城市のよいところ			は	
結城小学校 5年	やまうち 山内	ゆうき 優希	結城西小学校 1年	ねつ 根津 りお 里央
モンシロチョウ			主人公は自分	
結城西小学校 3年	あだち 安達	ちほ 千穂	結城中学校 1年	たかはし 高橋 あおば 青葉
寝顔			イトカワのひとりごと	
結城中学校 1年	はりがい 針谷	かすみ 香澄	結城中学校 2年	もろ 諸 たくみ 拓視
ひとしずくの			雪の光	
結城東中学校 1年	くわたに 桑谷	まゆ 麻侑	結城東中学校 1年	こもりや 小森谷 ゆき 友紀
遠くの浜から			人間と植物	
結城東中学校 1年	ふじの 藤野	りな 里菜	結城東中学校 1年	ほうじょう 北條 ひろき 裕喜
夏の終わり			ミサンガ	
結城南中学校 1年	あべた 阿部田	しゅうぞう 脩三	結城南中学校 1年	いわさき 岩崎 えり 恵理
その先へ			涙	
結城南中学校 2年	やまなか 山中	つかさ 東紗	結城南中学校 3年	あおた 青田 まさひで 真英
生きる理由			笑顔	
結城南中学校 3年	あさの 浅野	たくむ 拓武	結城南中学校 3年	ほしな 保科 えりか 絵里加
そして今日も育つ				
白鷗大学足利高等学校 1年	うえの 上野	みさと 未恵		

新川和江賞

ランドセル

結城小学校一年 野呂瀬 早紀

くまぐまするじ しんぴんのおい
あたらしい おともだちができたよ
くまぐま はじめて ないちゃったよ
わたしのあたらしい はじめてを
きょうしつに そつとみてくねる

くまぐまするじ あせのおい
あめが ザアザアぶっても
たいようが キラキラしても
てんきのはげしく じつげき
わたしのせなかで じつとがまんしてる

くまぐまするじ じいちゃんのおい

どんなにけんかしても

きらいじつても

いつも わたしのみかたをしてくれた

たくさん おんぶしてくれた

おおきな せなかにありがとう

これからは わたしのせなかでみてね

わたしのランドセルは

じいちゃんからの おへるもの

短評 新川和江賞 「ランドセル」 野呂瀬 早紀

入学祝いに、おじいちゃんがおくってくださいだったランドセルは、まるで
おじいちゃんそのもののようじに、教室の中でも、なまきちゃんを見守ってい
てくださいます。くわわたしのあたりはじめてはくまぐまのじいちゃんに、
とてもフシッユ。

心ばかりでなく、手なわりのやにおいなど、体ぜんたいで、おじいちゃん
とのつながりが、あたたかくうたい出さわっているところも、すばらしい。
おじいちゃんへの、よいお返しの詩ができましたね。

☆優秀賞受賞作品

オリオン

山川小学校五年 海老澤 朋代

鼻の先が枝をひんとしています。
 ママにかげをひきまよと、
 かちんかんの時からた毛布は、
 赤ちんぱの味のかマシユマ口は、
 プルベリとペとかします。
 左のいほとのお庭のは、
 しん空にかたぶの、
 東のいほとのお庭のは、
 私のお好きなオリオン。
 初めのおほえなオリオン。
 オルゴールが一つ一つに、
 音をほじくみたり、
 輝いてキラリンと、
 私の大なりオリオン。
 私と二番目の妹と三番目の妹。
 空の下のお願いや
 お祈りはぎつとかないますよこと、
 仲良くおぎょうとさくすわります。
 こしよは小さくお話を、
 くすはお口に手をあてて、
 周りのお星様に失礼がないように、
 仲良くおぎょうとさくすわります。
 春の夜には目に届かなくても、
 反対のお空には輝いていて、
 すつとと輝いていて、
 私の大好きなオリオン。

私の大切なオリオン

短評 優秀賞「オリオン」海老澤 朋代

朋代さんがオリオン星座が大好きで、たいせつにお思いなのは、その三つ星が自分たち三姉妹に見えるからなのでしょう。
 メルヘンのお城のお姫さまたちのように、愛らしくて、おぎょうつきがよくて、三人頬を寄せ合って、ロマンティックな夢をみているような、おぎょうつきがよいです。このコンクールも今年で三回目、毎年おひとりずつ、甘美な詩を見せてくださいました。

生きる海

結城中学校一年 伊藤 真帆

夏の陽射しが
 押し寄せる波にのみこまれた
 きらきら光る海の色が
 青く青く輝く
 私は
 スポンのすそをまくりあげ
 ひいていく
 海の波を追いかける
 吸い込んだ息が
 はきだされるかのように
 ざあーと波が押しよせる
 呼吸に似た波の音
 生きる海
 私と一緒に息をしよう

短評 優秀賞「生きる海」伊藤 真帆

海が、息を吸ったり吐いたりする巨大な生きもののようにとらえられているところに、注目しました。すべての生命は海を起源としていますので、真帆さんの体の中に伝えられている遠い記憶が、海辺に立つとよみがえるのでしょう。
 <生きる海> 私と一緒に息をしよう<生命感に溢れたこの二行を読み、私も思わず深く呼吸をしました。>

☆優秀賞受賞作品

ゴシップ

結城中学校二年 矢口 華帆

私はいつも人の間を走ります。
学校の廊下で駆け巡っています。

私が言魂ことたまとして発せられると

たちまち沢山の私が集まります。

沢山の私が入りの心に捕らえられます。

そして、たんぽぽの綿毛の様に

ふわふわ飛んで種をまき散らします。

そんな私の寿命は七十五日です。

私は七十五日もすると枯れてしまうのです。

けれども少しも寂しくありません。

次々と私は生まれて、

人々の間でひっそりと囁かれる様に語りがたがれてゆくのです。

ほら、また広くもせまいこの世界で、

身近な画面の世界で、

ほんのささいな道端で

そして、あなたのすべそばで

私はいつでも生きています。

短評 優秀賞「ゴシップ」 矢口 華帆

「ゴシップはうわさ話。有るごとく無いごとく口から口へ伝えられていくうちに、変形して奇妙なお化けになる」ともあります。人のうわさも七十五日、と昔から言われていて、いつかは忘れ去られるものなのですが、この詩が珍妙なのは、「ゴシップそのものに作者がなり代って、その性格や成り行きを語っていること」だ。〈学校の廊下〉なごにも好んで出没なさるご様子。

「夏色のカーテン」

結城東中学校三年 小林 佑衣

私は窓辺を眺める 毎日 毎日
カーテンがゆれた 疲れた心が癒される

おいしい実もつける 緑の素敵なカーテン

西の窓は 黄色の小花柄がかわいい

南の窓は 二色の朝顔模様が美しい

さわさわと 優しい音色を響かせている

朝日が差し 気持ちよさそうにゆれる

キラキラと光がこぼれ ほほえみかけた

「今日も がんばろう!!」

そんな気持ちで 胸の奥からわきあがる

キラキラと照りつける 灼熱の太陽

葉をいっぱい広げ 懸命に立ち向かう

私にも その勇気を分けてください

生きる力を! 強い精神力を!

夕日をうけ 緑からオレンジ色に変わる

時には 夕立を浴び 虹色に反射する

ゆっくと輝きを増し 希望があふれ出す

迷いが消えた 夢はかなう 必ずかなう

いつしか 月が出て青白い光が差し込む

葉は 上手に夜の間に溶け込んでいった

時折 星が瞬き 私は幻想にふける

今日の無事を感謝し 明日の平和を祈る

私は 窓辺を眺める 毎日 毎日

カーテンがゆれた 心が温かく満たされる

短評 優秀賞「夏色のカーテン」 小林 佑衣

朝顔やゴーヤ、きゅうりなど、つるを持ってすんすん伸びる植物を、窓際に植えて日除けにしているお宅や建物を、夏になるとよく見かけるようになりました。一種の工口対策なのでしょうか、佑衣さんも書いていらっしゃるように、緑の素敵なカーテンになっていきます。涼ばかりでなく、生きる力を! 強い精神力を! たしかに与えてくれます。もっと増えるといいですね。

☆優秀賞受賞作品

見上げた空

結城第二高等学校三年

生沼

歩美

私は考えた

ここからどうやって抜け出そうかと

私は考えて

いくつか策を練った

それなのに私の心は動かない

なぜだろう

上を見上げて脱出を試みるが

やっぱり途中で諦めてしまう

下を見ても出口はない

このまま閉じこもったままなのか

横を見ると自由に輝いている人たちが

通り過ぎて行く

でもそれは私の思い込みだった

私は考えた

私は私しか見ていなかった

周りの景色よく見ていなかった

鏡に写る私も私だ

そっと光に手をかけてみる

短評 優秀賞「見上げた空」

生沼

歩美

狭苦しい部屋に幽閉されて、脱出することが出来ない、という思いに、考え深い人ほど囚われがちです。しかしさらに考えてみると、自分を縛りつけていたものが、自分自身であったことに気づきます。気づいた瞬間からにわかには縛りがほどけて、戸外にも出られるようになります。明るい景色も目にとび込んで来ます。そっと光に手をかけてみる。は、よく考える人だけが到達できる、美しい一歩です。

センダンの木



優良賞受賞作品

でないでない
江川北小学校一年 森 愛子

いじげが
ひなこ
いじもは
すうた
じいん
あたまじが
かかっ
くも、ずいのはな
でじな
なな

未来へ続け、みんなの笑顔
江川北小学校四年 坂入 安結菜

おばあちゃんが子どものころ
未来はないと思っただって。
ウンウン、ゴォー、ヒューン、バーン
「早くもぐねー」
いつも暗やみの中、いっわいっわ
まけないでがんばった。
やがて平和な毎日になった。笑顔の毎日。

お母さんが子どものころ
未来はロケットで宇宙旅行に行ける
思っただって。
スリー、ツー、ワン、ゼロ、発しゃ
女の人も宇宙に行ける時が来た。
「早く起きなさい。時間よー」
いそがしい毎日だけど、笑顔の毎日。
わたしの未来、耳をすませば
「おはよう」
友達の元気な声が聞こえている。
目をこじれば、家の中のやさしい笑顔が見えている。
おばあちゃん、お母さん、わたし、
みんなの笑顔
未来へつなごう

☆優良賞受賞作品

地球

緋川小学校五年 中山 涼太

地球が泣いてる

木を切らないでいてる

温暖化を止めてくれと泣いてる

みんなに一生けん命伝える

世界のあちこちで変な現象がおきてる

山火事、洪水、もつ書

巨大化したハリケーン、寒波

地球もガマンできなくなつたのかな

地球も叫んでみたいのかな

温暖化を止めてくれと叫んでるのかな。

なみだ

城南小学校三年 池田 真透

なみだはじからるのだらう

なんのためにるんだらう

さみしい時 かなしい時 あびしい時

かんどしい時

色々なまじもちのなみだが全部同じじからるんをなめていて

られない

きつと目のおひのせい

たぐさんのなみだのぶんがあつて

小さな小さなたれかが

そのぶんをせぶんだ

小さな小さなたれかは

ぼくなのかもしれないけど

ゆいじをきかなこときがあめ

なぐもかかって思ったときも

なみだのぶんをせぶんだ

☆優良賞受賞作品

がんばれ、カナブン

城南小学校五年 是松 悠大

カナブンは樹液を飲んでいて、
カブトムシが横からわらわらしてきた。
近づいたとたん

「ここは、おれの場所だ。」
というように、カナブンを角ではさんで、
投げとばした。

カナブンは、よろめきながらも、
羽を必死に動かし、にげて行った。

また、カナブンがもどってきた。
カブトムシをじっと見ている。

そして、立ちすくんでしまった。
つるぎのような角、

どんな動きも見のがさないうち、
すぐどこかまのような足
怪物のような大きな体。

カブトムシは、

カナブンを横目でにらみつけながら
ゆっくゆっく樹液を飲んでいく。

しほらへくして、

カナブンは飛んで行ってしまった。

自然界での小さな戦い。
でも、それは虫たちにとっては
生きのびのための、大きな戦い。

あさがお

山川小学校二年 阿久井 美月

あさがおの たねを まいてみたよ
くっついたさなだね

いじになったら めがでるのかな
まいにち おみずをあげて
はやくとまいて あさがおのめ

あさがおの めがでたよ
ちいさなはっぱが 2まい

いじになったら はながさくの
まいにち おみずをあげて
はやくとまいて あさがおのはっぱ

あさがおの はっぱがでてきたよ
ほじきたってあげたり
しなまいて ヴーローの

まいにち おみずをあげて
はやくとまいて あさがおのはな

あさがおの おはながわいたよ
ちいさいころのおおきなはなが
でも ゆいがた しゅんぼつ

あしたも かいじょうな
おみずを あげよう

☆優良賞受賞作品

うまじいおひやう

結城小学校三年 野口 悠斗

トンネルの入口に立って

おひやうおひやうの中

長いトンネルをぬけて

天じょうからポタポタ、水が落ちる

めぐるみたりになつて

いじめるがごまかすはつた

うしろをうしろのほうの

カーテンの音が

おひやうのうしろの音が

七回 おひやうのうしろの音が

地下にひながる大まな

地下にひながる大まな

青いおひやうの葉っぱが見える

天国へひながる大まな

おひやうのうしろの音が

おひやうのうしろの音が

お父さんの仕事

結城小学校三年 松本 菜那

わたしのおひやう

わたしのおひやう

お店のうしろの仕事を

「おひやうはかかっていますか」

「おひやうはかかっていますか」

おひやうの仕事を

でもわたしは相手が

チャーシューパン かみそ

チョコチョコシャカシャカ

ブーンブーンバリカンの音

おひやうの仕事を

おひやうの仕事を

おひやうの仕事を

おひやうの仕事を

おひやうの仕事を

☆優良賞受賞作品

いのちのこころ

結城小学校三年 富田 牙香

ひいばあちゃん
おばあちゃん
お母さん
わたし
みんなのこころ
よむわらわら
動物が大好き
じいさん
ひいばあちゃんのお母さんの事は知らない
じいさん
わたしが子どものころは
きこえていたよ。
かいたいのちのこころ
わたしが子どものころは
あつたよ
いのちのこころは
かいたいのち

いのち

結城小学校五年 小野 真音

朝の時
野球の朝練
うしろ無しのいのちが見える
その風景
今日も楽しい一日がはじまる
ななめかたキキョー
仲間と野球の朝練
あつたよ
朝陽のいのち
あつたよ
あつたよ
今日、ピカールのバッティングをした

☆優良賞受賞作品

結城市のよいところ

結城小学校五年 山内 優希

食べ物がいっぱいある。

かんぴょう、おまんじゅう、すだねばなし

どねもおいしいものばかり。

有名なものもあるところ。

結城紬、桐タンス、桐げたなど

どねもきれいなものばかり。

ほかにも自まつりや祭りなどいろいろ

お寺や神社もいろいろあるよ。

アクロスや情報センター

便利なものもいろいろある。

ほかにも、こんな結城市が好き

結城はみんなに自まつりや祭りなどいろいろあるよ。

は

結城西小学校一年 根津 里央

はがぬけた

子どものは

わたしのちいさな ちいさな 子どものは

やねにむかって たかくなげた

どろろで「ころろ」とおどがした

ちいさな ちいさな おどがした

わたしのは

大きな 大きな 大人のは

はやく はやく はやく

わたしのは

ちいさな ちいさな 大人のは

ちよこんと ひよことり かおだした

☆優良賞受賞作品

寝顔

結城中学校一年 針谷 香澄

ねじがねてい

ぬいぬい

気持ちよめようだ

心がほかほかしてきた

赤ちゃんも

すすすすとねいさ

何かと守らねていさだだうかが

安心しました願

そのまま

あたたかくな

すうすうと心気持ちでいたい

イトカワのひびく

結城中学校二年 諸 拓視

私は、イトカワの

ついで

私の名前の由来になったイトカワと

同じ種族の、ニンゲンとかいう生き物が

私の体の一部をはずして

ニンゲンのすみかにもっていった。

私とついで

勝手に降り立たね、

名前をつけらね、

体の一部をもっていかれた。

別に、

水星でも金星でも火星でも木星でも…。

といてもきみがなにかの宇宙なのだ

見つかってよ

。イトカワのひびく。

☆優良賞受賞作品

ひじょうの

結城東中学校一年 桑谷 麻侑

葉からひじょうへ

手の中へおち

地におち

恵みとなり守られる

とじ明く

いじ 手の中からじほむおちるが

分らない

太陽の光あび

きつららふ

輝く星

一じのじほむ

恵みとなす守られる

葉の恵み 守り葉が

人の恵み 守り人が

ぬくもり

強き

輝き

体の全部の表現をすべて

羽のよじおち

また

まいおちる天使のよじ

葉からひじょうへ

ぬくもり

恵みとなす

雪の光

結城東中学校一年 小森谷 友紀

冬の空からまじ落ちる

美しい雪の結晶たち

とじも冷たい雪たちは

手づらねると溶けてつじ

けねどもおちてもまらふ

美つて輝くと

あたりのつじつらふ

木や植物をつじつみ

太陽の光をあびて

銀色に輝く雪の結晶たち。

☆優良賞受賞作品

遠くの浜から

結城東中学校一年 藤野 里菜

一つの浜に流れついた一つの浜

知らないだけれが知らない浜から流した浜

波に運ばれて

のまねながら

一つの浜にいつまで

どんな旅をしたんだろう

雨のふん海ぞ

風のふん海をこえて

遠くの浜から流された

海はまなぞ

浜というポストへ入れられた手紙を運び

ゆう便局のよつたな

人間と植物

結城東中学校一年 北條 裕喜

植物は歩くことができない

しかし光を求め続けて

せいせいぽよ手をひらげ

葉脈にききみこめ

ほんもふじつの人間だけで

明るい将来へ向けて

光を求めてくる

人間と植物

形はまったく

ちがうけど

光に向かって進んでくる

将来に花を咲かすために

ごんなに落ちこんでせ

がんばらなくてほならない

生きてくんのだから

☆優良賞受賞作品

夏の終わる

結城南中学校一年 阿部田 脩二

照しける太陽も

夕方には やわやかに

稲穂に秋風が吹いて

夕暮れの空が水色とオレンジ色に染まる

虫の声もじじからか聞こえて

画面の書きがひんがし

縁側で、まだわらわのほし

名づかひに並ぶ

秋がもつまで

光る銀河を運んでやって来る

銀河鉄道を旅してみたくなる

カンパネルフやシヨバンのように

友情という文字を、少し知った気がする

中一の夏の終わる

ミサンガ

結城南中学校一年 岩崎 恵理

友達との絆

そして未来に続く果つしない友情

そのしるしがミサンガ

一本一本の糸に心を込めて

編んで

たまにはへこけさうになるけれど

願いを叶えるため つなぐ

つなぐに 編んで

私の気持ち つなぐかな？

ひびくかな？ 友人の思い

完成した ミサンガを

そっと手にとってみて

あきらめずに 編んでみかた

チリチリとびくかなかな？

☆優良賞受賞作品

その先へ

結城南中学校二年 山中 束紗

かなしみの海

何度も

おぼれながら

悩みの道

何度も何度も

まよいながら

歯ぐいしばこつ

顔あげて

ここまできたはずだろつ。

だから今

強く強く高く

飛べるはず。

やうだつて地面

けりあげて

その先へ。

遠く回つておぼれぬ。

その先へ。

涙

結城南中学校三年 青田 真英

涙とは何だろつ

涙って人の感情の一部かな

悲しいときや嬉しいときも涙

涙は流すよね

涙とは何だろつ

涙は心の痛みかな

いじめられたりする時に流す涙

あれは心の痛みだよ

目に見えないけれど

人にとって大切なところが痛いんだ

涙は心の一部

涙は気持ちのこつ

だから涙は大切に流せつよ

☆優良賞受賞作品

生きる理由

結城南中学校二年 浅野 拓武

生きる理由

僕はそれを探す

理由のない人生なんて

退屈だ

変わらない毎日がくり返られる

ただ疲れるだけ

変えたい そんな日々を

だから僕は見つけ出す

生きる理由を

待っているだけでは何も変わらない

動き出すなら何もしがめない

手をのばして

生きる理由を

つかみとれ

笑顔

結城南中学校三年 保科 絵里加

まじこち まじこち少すじ

小さな幸せ あつめたら

いつのまにか ココロが

かがやいてきた

かがやきを思いかけてくべし

そこは…みんなの笑顔につながっていた

まじこち まじこち少すじ

小さな努力 つみあげたら

いつのまにか 自分が

かがやいてきた

かがやきを思いかけてくべし

そこは…自分の笑顔につながっていた

☆優良賞受賞作品

そして今日も育つ

白鷗大学足利高等学校二年 上野 未恵

すう、ふう、すう、ふう、

僕の呼吸はだれよりも急いでいて

ちよっぴり少ない

すべくムせたりせきこんだSotomoriya

おなかから出た世界の空気を

「おいしい」ね

やあ、やあ、やあ、やあ、

僕の泣声はだれよりも暴れていて

ちよっぴりない

お礼だっつてほしい怒ってみたい

でもみんなのようになんか

「やあー」「っしゅっしゅ

きゅ、きゅ、きゅ、きゅ、

僕の笑い声はだれよりもゆるやかに

ちよっぴり幸せ

おじいちゃん顔が風船のよう

おかこつてんぽうはあつて

「もう一回」やむだっつてみ

くまなくも芽生えなやうに

「新しく」が増えつゝ

そつて僕は今も高く



センダンの木の花

『 第二部 』

○グロリア混声合唱団

私達、合唱団は男声一七名、女声三四名、計五一名の構成で『仲良く・楽しく』をモットーに月二回楽聖になって目標実現に向かって練習しております。

古河・筑西・小山・日立市と熱心に練習に参加する方々には感謝の心でいっぱいです。笑顔で始まり笑顔で終るあの合唱は最高の音です。

○センダンの木の集い

詩を書く人、書かない人、どなたでも心を開いての語らいの中で、豊かなひと時を一緒にどうぞという新川先生のお心と、先生が母校のセンダンの木への思い出を大切にされる心を思い、全国から先生をお慕いしている人たちがつくられた集いとのことです。

○ボイスフレンド

ボイスフレンドは、朗読ボランティアサークルとして平成四年に、市の広報や書籍などを録音して視覚障害者へお送りするなどを目的につくられたとのこと。なお、新川先生の詩の朗読は、昨回以降に続き二回目となります。

